

実践団体情報

記入日	西暦 2019 年 1 月 18 日 (2018 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	学校法人自由学園 危機管理本部
代表者名	蓼田圭二
プラン全体のタイトル	防災学習教材「そなえるカルタ」・「そなえるドリル」で防災を学ぶ ～防災教育で企業と協働～
電話番号	042-422-3111 (内線 219)
メールアドレス	minoda@prf.jiyu.ac.jp
実践団体の説明	学校法人自由学園は、1921年に羽仁吉一・もと子夫妻によって、東京都豊島区西池袋にキリスト教主義の学校として設立され、その後現在の東久留米市学園町へ移転した。約3万坪の敷地の中に、幼稚園から大学部までの在校生・教職員合わせて850名ほどが生活をしている。防災への取り組みは、東日本大震災の翌年の2012年に、安全対策本部(現危機管理本部)を発足させ、学内の防災力強化と並行して、学校の安全・安心を地域との連携の中で確保することを目指し、様々な取り組みを行ってきた。そのために行政をはじめ、企業や大学研究室などとも積極的に協働してきている。
所属メンバー	本部長 蓼田圭二
活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都東久留米市 (学園町自治会、松ヶ丘自治会) ・東京都東村山市 (青葉町、廻田町、多摩湖町、諏訪町、富士見町)
活動開始時期・結成時期	2015 年
過去の活動履歴・受賞歴	<p>(主な活動履歴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自由学園しののめ茶寮避難所運営連絡会」の開催 (2014～2016 年) ・「防災フェスタ」の開催 (2017・2018 年) ・「FM ひがしくるめ」設立へ参画 (2016～2018 年) ・キリスト教会防災ネットワーク新座・東久留米・清瀬「防災講演会」講師 (2014～2016 年) ・東久留米市学園町自治会、東部第二分団自治会連合会、西中地域防災連絡会防災訓練 講師 (2016 年～) ・東村山市青葉小学校避難所運営連絡会防災訓練 講師 (2017 年) ・東村山市社会福祉協議会「地域懇談会」講師

	<p>(2018年～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東村山警察署、東村山市社会福祉協議会 「災害時防災ボランティア養成講座」 講師 <p>(2018年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東村山市男女共同参画推進事業 講師 (2019年) <p>(受賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防火管理者業務適切功労 (東久留米消防署 2016年) ・「そなえるドリル」キッズデザイン賞受賞 (2018年) ・「そなえるドリル」グッドデザイン賞受賞 (2018年)
<p>プラン全体の概要</p>	<p>これまで本校では、学習者が学習の結果として、防災を“我が事化（個人の行動へと具体化）”するような学習形態を模索してきた。その中で、教育現場へ導入が進められているアクティブラーニングに着目し、そこで活用できる教材として「そなえるカルタ（三菱地所レジデンス（株）が自社の防災活動用に制作）」を取り入れてきた。今回のプランでは、その「そなえるカルタ」による学習成果を定量的に捉える共に、どのような“我が事化”に結びついているのかについても検証することを目的としている。</p> <p>プランの概要は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そなえるカルタ」を使った防災学習会の実施。 ・補助教材として「そなえるドリル（本校が三菱地所レジデンス(株)などと協働で制作）」の学習過程への導入 ・「防災意識尺度（防災科学技術研究所）」を使ったアンケート調査の実施と分析。 ・本防災学習の学習効果のアンケート調査の実施と分析。 ・三菱地所レジデンス（株）と本協働の振り返りの実施。 <p>最初にも触れたが、このプランで使用されている「そなえるカルタ」は、企業が自社の防災活動用として開発したものであるという点に特徴がある。本校は、2015年9月に三菱地所レジデンス（株）との間で防災に関する業務提携を行い、相互に活動の自由度を確保しながら協働を進めてきている。このようなかたちで防災活動に取り組んでいることも、新しいチャレンジの一つだと言えるだろう。この機会を通して学校と企業とが、防災活動で同じ目標へ向かって協働できるといふ事例報告にもなれば幸いである。</p>

プランの年間活動記録


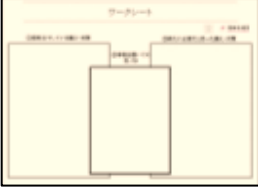


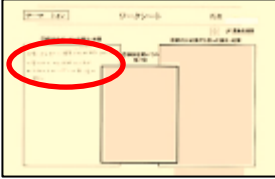



	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	・三菱地所レジデンス（株）との防災学習会打ち合わせ	・「そなえるカルタ」のテーマ確定および「そなえるドリル」の組み込み方の検討	
5月	・男子部高等科3年生防災学習会実施	・学習成果を測るための尺度選定 ・分析処理方法の決定	・災害に関する事前学習 ・アンケート調査実施 ・アンケート結果分析
6月			
7月			
8月	・三菱地所レジデンス（株）との防災学習会打ち合わせ	・「そなえるカルタ」のテーマ確定および「そなえるドリル」の組み込み方の検討	
9月	・女子部高等科3年生防災学習会実施 ・中間発表会用ppt資料作成		・災害に関する事前学習 ・アンケート調査実施 ・アンケート結果分析
10月	・中間報告会		
11月			
12月		・防災学習後の「我が事化」測定尺度の作成 ・三菱地所レジデンス（株）による振り返り（本校との協働の意義）	・防災学習後の「我が事化」アンケート調査実施 ・アンケート結果分析
1月	・最終発表会用ppt資料作成		

2月	・最終報告会		
3月	・三菱地所レジデンス (株)との振り返り		
プラン全体の反省点・課題・感想		<p>今回は「そなえるカルタ」での学習の中に、昨年度本校と三菱地所レジデンス（株）などが協働で制作した「そなえるドリル」を組み合わせる新しい試みを行った。「そなえるドリル」を補助教材として活用することで、これまでの「自学」→「グループ共有」→「全体共有」という流れを、「自学①」→「グループ共有」→「自学②」→「全体共有」へと変えることができた。このように新たに“「自学②」”を挟めたことで、グループ共有までの学びを、一度自分へ戻して考える過程を作り出すことができ、その時間が「家族の防災計画書」の作成に充てられるようになった。</p> <p>課題としては、時間の制約がある中で、個人として学習する「そなえるカルタ」のテーマを、ある程度絞り込まなければならないという点が挙げられる。これまでのように、全体での共有を通して他の部分を補うこともできるが、より多くのテーマを学習できるような対応も考えたい。尚、「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」は、現在共にダウンロードフリーで利用できるようになっている。今後多くの方々に使っていただけると幸いである。</p> <p>最後に、三菱地所レジデンス（株）の全面的な協力へ感謝を述べたい。この機会を通して、学校と企業とが同じ目標へ向かって取り組めること、更にはそれを win-win の関係へと発展できることを示せたように思う。</p>	
今後の活動予定		<p>三菱地所レジデンス（株）とは、引き続き協働で防災活動を推進してゆくことになる。今後は、三菱地所レジデンス（株）が実施する防災訓練へ、本校生徒が学習会でのファシリテーター役として参加し、協働で防災活動を行うことも考えている。</p>	

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2019 年 1 月 10 日 (2018 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	学校法人自由学園 危機管理本部
実践番号	1
タイトル	防災学習教材「そなえるカルタ」・「そなえるドリル」で防災を学ぶ ～防災教育で企業と協働～
実践担当者のお名前	蓑田圭二

実践にかかった金額	0 円 <small>（ほぼ 0 円・1000 円未満・3000 円未満・5000 円未満・1 万円未満・3 万円未満・5 万円未満・10 万円未満・30 万円未満・50 万円未満・100 万円未満・300 万円未満・500 万円未満・1000 万円未満・3000 万円未満・5000 万円未満・1 億円未満・1 億円以上・非公開（個別にお問い合わせください）・回答不可・不明）</small>
実践の準備にかかった時間	数十分
実践活動を実施した日時	西暦 2018 年 5 月 19 日 8 時 50 分 男子部高等科 3 年 西暦 2018 年 9 月 13 日 10 時 40 分 女子部高等科 3 年
実践の所要時間	・事前学習 45 分 ・「そなえるカルタ」学習会 80 分
実践の運営側で動いた人の人数	1 人（防災学習会に三菱地所レジデンス(株)社員 5 名）
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	68 人（男子 33 人、女子 35 人）
実践を行った都道府県と市区町村	東京都東久留米市
実践を行った具体的な場所	自由学園男子部記念ホール 自由学園女子部理科室
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	三菱地所レジデンス(株) 防災倶楽部社員（ファシリテーター役）、そなえるカルタ（テーマごとに表と裏を別々に印刷する）、そなえるカルタ・ワークシート、そなえるドリル、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード、マーカー、筆記用具（学習者）、統計処理ソフト（「R」）、

<p>達成目標</p>	<p>「そなえるカルタ」の学習効果を定量的に捉えること、またその学習結果として、どのような防災の“我が事化（個人の行動へと具体化）”へ結びつくのかについても検証することを目的とした。併せて、学校と企業とが同じ目標へ向かって協働して取り組めること、更にはそれをwin-winの関係へと発展させられる可能性も示したいと考えた。</p>	
<p>どの力を身につけよう としましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>実践内容・方法</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>「そなえるカルタ」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「そなえるカルタ」ワークシート</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「そなえるドリル」</p> </div> </div> <p style="color: red; font-size: small;">※「そなえるカルタ」・「そなえるドリル」はダウンロードフリーで利用できる。</p> <p>1) 「そなえるカルタ」と「そなえるドリル」のテーマを決める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>例) トイレ</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>2)の作業</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>5)の作業</p>  </div> </div> <p>2) “そなえるカルタ・ワークシート”にある“<u>①現時点でしている備え・対策</u>”の欄に、トイレに関する<u>自分の対策の現状</u>を記入する。</p> <p>3) “そなえるカルタ” トイレ編”の<u>カード表面</u> 3枚を配布してもらい、そこに記されている被災地で起きたトイレ問題を各自で読み、感じたことをグループ内で共有する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>※共有では全員の 発言を聞ける ようにする</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>※ファシリテーター役を置くことでカード配布等が スムーズにでき発言の内容も整理しやすくなる (写真は三菱地所レジデンス (株) 防災倶楽部社員)</p> </div> </div> <p>4) “そなえるカルタ” トイレ編”の<u>カード裏面</u> 3枚を配布してもらい、そこに記されている3)で示された被災地でのトイレ問題への解決策を各自で読み、感じたことをグループ内で共有する。</p> <p>5) グループ内で共有した内容で、重要だと思ったことをワークシートの“<u>②事例を聞いての気づき</u>”の欄に記入する。</p>	

	<p>6)「そなえるドリル」のトイレ編に取り組んでみる。ここでは、必要となる携帯トイレの数が算出できるようになっているので、各自で必要数を計算して、トイレに関する「家族の防災計画書」を作成する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>「家族の防災計画書」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>7)の作業</p> </div> <div style="text-align: left;"> <p>※二種類の学習結果が手元に残る 《我が事化”への足がかり)》</p> </div> </div> <p>7)グループ内で各自の防災計画書の内容を共有し、ワークシートの“③新たに必要だと思った備え・対策”の欄に、ここまでの学習を通じた自分の考えを記入する。</p> <p>8)③の内容を基にグループ毎の考えをまとめて発表する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: left;"> <p>※小型のホワイトボードがあると便利。 無い場合は、グループ毎のまとめが分かるように並記する。</p> </div> </div>
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の防災学習会の前後でアンケート調査を実施し、男女共に「被災状況に対する想像力（災害が起きたらどんなことが起きるか、何が必要か、何をするかを想像する力）」、「災害に対する危機感（災害をどのくらい深刻に捉えているか、現状ではまずいと思っているか）」、「他者志向（社会や人のために何かをしようと思う心）」という三つの項目で事後の得点が上がりかつ平均を上回るという結果が得られた。このことから、今回の学習形態が及ぼす肯定的な影響の範囲を推察ことができる。一方、「災害に対する関心（災害に興味を持ち、災害を自分のこととして捉えている程度）」、「不安（災害のことを心配している度合い）」という二つの項目では、女子では事後の得点が上がったが平均を下回り、男子では逆に事後で得点が下がるという結果となった。上記三項目との違いは、今後の研究課題である。 ・防災学習後には、「家族と災害時のことについて話し合いを持った」、「非常持ち出し袋の内容を見直した」、「家庭の防災用品を補充した」という“我が事化”を行った生徒が見られた。

	<p>・三菱地所レジデンス（株）では、自社のマンション居住者との防災活動の中で、「防災を“やる人”と“やらない人”が二極化する現状」、「災害時、中高生に活躍してほしいがマンション防災ではそこの接点が無い」という課題を抱えており、本校との協働の機会、その解決の糸口が得られる場となっているようだ。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>今回工夫した点は、「そなえるカルタ」での学習の中に、本校と三菱地所レジデンス（株）などが協働で制作した「そなえるドリル」を組み合わせたことである。これまでの「そなえるカルタ」だけを使った学習では、「自学」→「グループ共有」→「全体共有」という流れだったものを、「そなえるドリル」を補助教材として活用することで、「自学①」→「グループ共有」→「<u>自学②</u>」→「全体共有」へと変えることができた。このように新たに“「<u>自学②</u>」”を挟めたことで、グループ共有までの学びを、一度自分へ戻して考える過程を作り出すことができ、その時間が「家庭の防災計画書」の作成に充てられるようになった。学習の結果として、ワークシートの他、この「家族の防災計画書」も手元に残せるようになったことは良かったと思う。</p> <p>課題としては、この防災学習に要する時間が約 80 分間であるという点である（事前の防災学習会を除く）。この授業時間が複数回確保できない場合には、個人として学習するテーマを、ある程度絞り込まなければならなくなる。これまでのように、複数のグループが、それぞれ違うテーマで学習を進め、最後に全体で共有するというやり方でも補うことはできるが、自ら取り組んだ経験に勝るものはないことから、学習機会をどのように確保するかが今後の課題である。</p> <p>また防災用品を実際に使ってみる経験も重要だと考えている。特に、携帯トイレなどは平時に一度使ってみる必要があるだろう。今回の防災学習会でも、水を使うかたちで携帯トレイを代表者数名が実際に使用し使い勝手などを経験した（これも全員が取り組めるようにした方が良さそう）。併せて、携帯トイレにも種類があるので、使い比べて</p>	

	<p>みて、必要な人に必要な種類を渡せる知識も身に付けておいてもらいたい。この点も実現に向けて工夫して行きたいと思っている。</p> <p>最後にこの機会を通して、学校と企業とが同じ目標へ向かって取り組めること、更にはそれを win-win の関係へと発展できることも示せたように思う。三菱地所レジデンス（株）の協力にも感謝したい。</p>
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	三菱地所レジデンス（株）防災倶楽部
関係者の説明	2015年9月本校と三菱地所レジデンス（株）は業務提携を行った
関係者の連絡先	三菱地所レジデンス（株）

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	ダウンロードフリーの防災教材をお探しの方々
伝えたい内容	「そなえるカルタ」「そなえるドリル」を是非ご活用下さい